

平成25年論文コンクール審査講評

職業能力開発論文コンクール審査委員長

職業能力開発の現状と課題を踏まえたさまざまな興味深い取組等が報告されました。特に「開発課題実習」をテーマにしたものが多く投稿されており、現場で様々な専門的技術分野に挑戦している姿がうかがえました。また企業や大学との連携等、これから求められる人材を育成する新たな方法としての事例についても多く執筆されていました。コミュニケーション能力の育成を題材にしたものもいくつかあり、今後必要とされる訓練のあり方が幅広く多様な方法で述べられていたのが特徴的でした。「キャリア支援」をテーマにしたものについては、制度を良く理解し、採用側の企業や訓練生の立場をしっかりと理解した内容が多く、他の機関にも参考となる特徴的な取組みもなされていました。全般に投稿されたそれぞれの論文で、取り組みでの苦労や職業能力開発に対する熱い思いを読み取ることができました。

開発課題実習における技術論文では、専門技術面に特化した内容や開発したプロセスについて詳細に述べられている点については良いのですが、この技術的な専門知識を、訓練指導員がどのように理解して、学生に伝えていたのか、その取り組みの結果どのような成果を得られたのか、までが具体的に述べられている論文の数は多くはありませんでした。職業能力開発の論文としては、取り組みの報告をするだけではなく、エビデンスに基づく取組の効果検証等がなされていることが必要であり、その有無によって評価に大きな差がでました。

総じて、分析・検証が適切に行われている論文と、そうではない論文との間では評価に大きく差がつけました。報告であっても図表等の客観的データは必要であり、図表等のデータが示されていないものは分析考察が不十分なものが多く見受けられます。目的や背景、分析方法、図表等のデータ、分析の検証や考察、結論、参考文献という、論文を構築する上での一連の構成が大切です。目的にあたるテーマ設定はもちろん重要ですが、前述の論文構成ができているものは、分析や考察、結論も適切であり評価できるものとなっています。その中でも新規性があり、今後の期待値が大きく、かつ取り組み状況やその効果が具体的、詳細に述べられ、丁寧に作り上げられた論文が高い評価を得て、受賞の運びとなりました。

今回受賞された方々はもちろんのこと、投稿いただいた皆様の取り組みと努力に敬意を表したいと思います。今後も職業能力開発に携わる皆様によって、幅広く新しい取り組みやチャレンジが行われ、次回のコンクールにも、その内容と成果が数多くの論文として投稿されることを期待して、講評とさせていただきます。